

SSH活動報告

台湾の高校生との共同研究がスタート(7月26日~29日/台湾)



2年10組 白石 真輝

私は共同研究にあたって台湾に行ってきた。日本ではない環境にいる高校生の姿を知ることができるとても良い機会だった。最も印象に残っているのは勉強に向かう姿勢が違うことだ。それは文化的、経済的、環境の違いによるものかもしれないが、最終的には私も彼らと同じ「社会」で競うことになる。そのときに自分ほどのような価値を発信することができるのか、考えさせられた。また、早稲田大学本庄高等学院や清真学園高等学校の人たちとよく話をしたのだが、同じ日本の同じ学年だとは思えないほど英語がペラペラで驚いた。

彼らに共通していることは、勉強は自分のためだと思っていること、やらされているという受け身の態度ではないことである。今回の台湾共同研究を通して、どんな物事に対しても受け身の姿勢ではなく「自発的」に取り組むことが大切であり、その意識こそが自分の成長につながると感じた。この貴重な経験を今後も深め、研究に生かしたいと思う。

海外の高校生との国際共同プロジェクトなどを体験(8月6日~9日/静岡市)



3年10組 上嶋 陽

私は静岡北高等学校が開催した「21世紀の中学生による国際科学技術フォーラム(Shizuoka Kita Youth Science Engineering Forum, 通称SKYSEF)」に参加しました。日本国内のSSH指定校やタイ、USA、イタリアなどの学校から生徒が来て、研究発表や国際共同プロジェクトなどを行いました。

国際共同プロジェクトでは混成チームに分かれて、与えられたテーマに沿って実験や創作活動などを行いました。私のチームは「デンプンに対する唾液の働き」というテーマで実験を行いました。実験の目的から方法・結果などが英語で説明されるため、専門用語を理解しつつ作業を進めていくことがとても大変でした。

今回このSKYSEFに参加して、改めて自分の英語力が劣っていることを痛感しました。この減多にならぬ経験を活かして、英語力を身につけるための勉強に励みたいと思います。

全国のSSH指定校生徒が一堂に会する生徒研究発表会に参加(8月7日~8日/神戸市)



3年10組 福田 貞子

日本全国から218校、海外から23校が集まったこの発表会は、さまざまな考え方・意見が交錯するとともに規模の大きいものでした。私たちは数学、物理、生物、地学などのさまざまな分野の中から化学を選択して発表を行いました。実は化学はいちばん発表件数も多く、先生や生徒が何人も私たちのポスターの前に並び、何時間も発表することになりました。何時間も発表し続けるのはとてもつらかったのですが、ここに集まった人々は自分たちなりに科学的思考をし、その考えを伝え合うことによってお互いを高め合えるような関係にあったと思います。私はこのような場に行くことができ嬉しく思いました。また、ここにいる人々に負けないような実験をしていきたいとも思いました。

来年度の生徒研究発表会での発表者に選ばれた人には、ぜひこの場の空気を体感して研究意欲を高めてもらいたいと思います。

探究活動の成果をポスターにまとめて発表(8月24日/長野県千曲市)



3年4組 石塚 千夏

私たちは、長野県屋代高等学校の「課題探究・課題研究中間発表会」に参加してきました。外部へ発表に行く経験がなかったため緊張していましたが、温かく迎え入れていただきとてもやりやすかったです。ポスターセッションでは、呼び込みをしなくても聞きたいと言って来てくれる方が多くて発表しやすかったですし、想定外の質問も多くて、発表していく中で新しい発見を見つけることもできました。

他校の発表を聞いた中には、美文字になるためにはどうすればよいかという研究で文字の比率を出して分析していたり、食べ物に感情はあるのかという研究で食べ物に話しかけたり音楽を聞かせて腐り具合を調べていたり、面白いものがたくさんありました。発表内容もすごく勉強になり、話し方や発表の仕方もう工夫していて、今後の校内での発表会で活かしていきたいと思いました。

SSH活動速報

9月 4日	探究活動I	探究活動の開始(全10回)
9月 6日	アカデミックプレゼンテーションII	Debate 3
9月 6日	アカデミックプレゼンテーションI	物理に関する英語発表の実施
9月 6日	公共科学論	地理歴史、公民科教員によるユニット授業「科学と公共I」の実施(全3回)
9月 6日	公共科学演習	情報班による物流の未来に関するプレゼンテーションの実施
9月 13日	アカデミックプレゼンテーションII	Debate 4
9月 13日	公共科学演習	情報科教員による物流の未来に関するワークショップの実施
9月 30日	公共科学演習	国語班による学校教育の未来予想に関するプレゼンテーションの実施